

奈良時代の塑造神将像

奈良国立博物館編

法華堂執金剛神立像

法華堂本尊・不空罽索観音像背後の北向きの厨子内に立つ塑像で、眼を見開いて開口怒号し、甲をまとして右手で金剛杵を振り上げる。右肩を強く後方に引き、左肩を前に出して腰をひねる体勢、風をはらむ天衣遊離部の動きなど、周囲の空間を取り込んだスケールの大きな造形は圧巻である。逞しい筋骨の隆起や浮き立つ血管の描写も迫真的で、像にみなぎる力を誇示している。秘仏のため保存状態が良く、金箔を交えた美しい彩色文様が鮮やかに残る。名実ともに天平彫刻の最高峰に位置づけられるが、その造立の真相に関しては謎が多い。ワンピース状の甲が両腰・背中・肩から胸までを覆う形式、肩喰(獅噛)がなく、頸部と前膊が露出する点などは成壇堂四天王像にない要素だが、風貌が増長天像と酷似するなど、様式的には成壇堂像との共通性が顕著である。両者は近接する時期に同一工房で制作された可能性が高いが、その関係をどう解釈するかが長年の課題となっている。

持国天立像

東南隅の持国天立像は、体側に張り出した右腕を直角に曲げて剣をとり、左脚を上げて立つ。四体中唯一、兜をかぶっており、襟甲をつけず、胸甲を肩で吊るベルトを表現する点なども、他の三体と異なる形式である。眼を大きく見開いて斜め前方を睨み、口をへの字に結ぶ風貌は威厳にみちており、怒りの力を凝集させるかのような筋肉の起伏が、巧みに再現されている。



多聞天立像

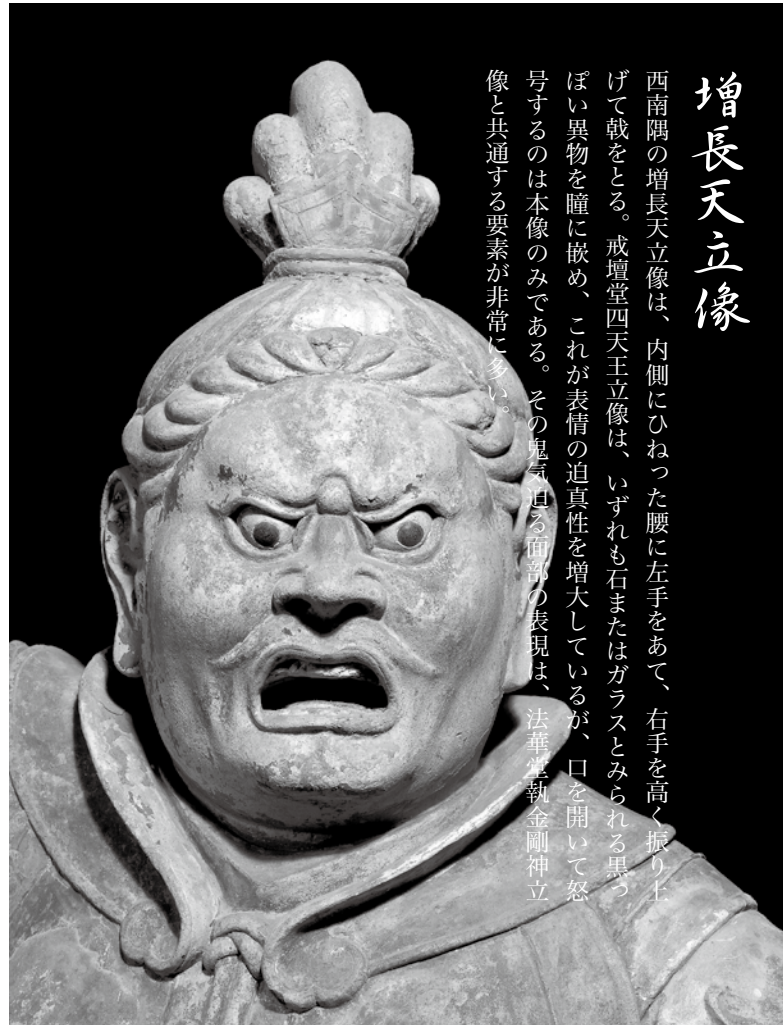
東北隅の多聞天立像は右手を高く挙げて宝塔をのせ、左手を斜め下方におろす激しい感情の表出を抑えた厳肅な風貌が広目天立像と共通し、持国・増長の「動」に対する「静」の表現が顕著である。広目・多聞の邪鬼がともに顔を斜め前方に向けて背中を踏まれ、左右相称に近いポーズをとる点も、持国・増長の邪鬼が強烈な対比を示すのと好対照をなす。



東大寺戒壇堂内の壇上四隅に安置される四天王立像は、天平塑像の傑作としてあまりにも名高い。ただ造立当初から現在地におかれていた訳ではなく、後世に寺内の他所から移されたことが確実である。

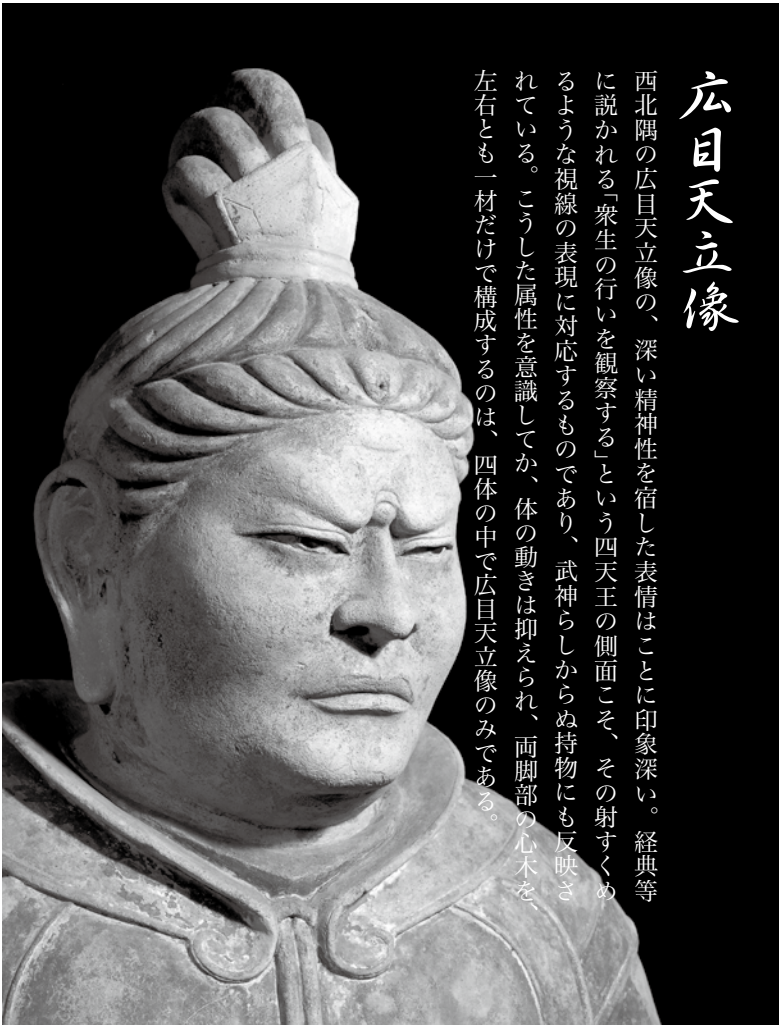
増長天立像

西南隅の増長天立像は、内側にひねった腰に左手をあて、右手を高く振り上げて戟をとる。戒壇堂四天王立像は、いずれも石またはガラスとみられる黒っぽい異物を瞳に嵌め、これが表情の迫真性を増大しているが、口を開いて怒号するのは本像のみである。その鬼気迫る面部の表現は、法華堂執金剛神立像と共通する要素が非常に多い。



広目天立像

西北隅の広目天立像の、深い精神性を宿した表情はことに印象深い。經典等に説かれる「衆生の行いを観察する」という四天王の側面こそ、その射すくめるような視線の表現に対応するものであり、武神らしからぬ持物にも反映されている。こうした属性を意識してか、体の動きは抑えられ、両脚部の心木を、左右とも一材だけで構成するのは、四体の中で広目天立像のみである。





因達羅大将立像



安底羅大将立像



迷金羅大将立像



珊底羅大将立像



真達羅大将立像



招杜羅大将立像



宮毘羅大将立像



摩虎羅大将立像



毘翔羅大将立像



波夷羅大将立像



頗你羅大将立像



伐折羅大将立像

十二神将立像（新薬師寺）

新薬師寺本堂に安置されるわが国現存最古の十二神将像で、激しい怒りを示す像から諧謔味を帯びた姿の像まで、各々の個性を表情豊かに造り分けている。奈良朝の塑造神将像の代表例として法華堂執金剛神立像・戒壇堂四天王立像と並び称される傑作だが、下半身に裳を着用する形式、造形面での志向（やや誇張と省略のあとがみられる）などが、東大寺の諸像と異なる。内部構造にも隔たりがあり、東大寺の諸像が上体部の心木を太い一材で造るのに対し、本像は三本の角材を並べて横棧で挟んでおり、これに腰の辺りで両脚部の心木を取り付け、外周に折板（幅約3cm、厚2～3mm）を縦にならべ、固定している。これら相違点が工房の性格と制作年代、いずれの差に起因するかが問題となる。なお十二体中、波夷羅大将立像は安政元年（1854）の地震で倒壊した。現在の像は昭和六年（1931）の細谷而楽による補作で、心木表面に針金を金網状に巡らせる構造をとっている。

目次

刊行にあたって（北河原公敬・湯山賢二）／凡例

図版

東大寺戒壇堂 四天王立像

（持国天立像／増長天立像／広目天立像／多聞天立像）

東大寺法華堂 執金剛神立像

戒壇堂四天王立像・法華堂執金剛神立像 X線透過写真

参考資料

戒壇堂四天王像のうち持国天立像心木復元模型／戒壇堂四天王像旧状／東大寺法華堂執金剛神立像・戒壇堂四天王立像の彩色文様復元図／十二神将立像（新薬師寺）／十二神将立像（新薬師寺） X線透過写真

論考

東大寺前身寺院における塑造神将像の造立

— 光学調査の概要紹介と報告書の解題を兼ねて —

…… 稲本泰生

法華堂執金剛神立像・戒壇堂四天王立像の彩色文様 …… 谷口耕生

法華堂執金剛神立像・戒壇堂四天王立像の彩色文様復元図作成にあたって …… 山崎隆之

X線画像による塑像の心木構造の調査・研究

— 国宝東大寺戒壇堂四天王立像と法華堂執金剛神像 —

…… 山崎隆之

東大寺伝世塑像断片のX線分析

…… 成瀬正和



天平彫刻の頂点をなす国宝東大寺戒壇堂四天王立像と法華堂執金剛神立像を、奈良国立博物館がX線透過撮影による画像を詳細に分析し、構造を明らかにする。参考として新薬師寺の十二神将像を付し、完璧を期す。奈良朝の仏像制作技法の研究に画期的な新知見を呈する報告書。

奈良時代の塑造神将像

奈良国立博物館 編

B4判 上製カバー装 本文 40 頁
口絵 122 頁 折込 2 丁

定価 24,150 円 (本体 23,000 円+税)

ISBN978-4-8055-0601-1 C3071

2010 年 11 月刊行

お取り扱いは

中央公論美術出版

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834